

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2020年5月22日

No.16

緊急事態宣言が出されている状況下で 収入の確保に奮闘する組合員に伝えよ！

～2020年度 夏季手当第2回交渉報告～

中央本部は5月21日に第2回交渉を行ない、会社から収入動向について説明を受けました。主な内容は以下の通りです。

【鉄道事業部門】

1. 今年度4月のコンテナ輸送は、積合せ貨物は在宅需要もあり堅調に推移したものの、新型コロナウイルス感染症による需要低迷の影響もあり、食料工業品、紙・パルプ、化学工業品、化学薬品、自動車部品、家電・情報機器、エコ関連物資などの品目で計画を大きく下回った。一方、農産品・青果物については北海道からの玉葱の発送が順調に推移し計画を上回り、対計画△795百万円(92.3%)となった。
2. 車扱輸送は、外出自粛に伴いガソリンの需要が減少したが、セメントの輸送が堅調に推移し、車扱全体で対計画+13百万円(101.3%)となった。コンテナ及び車扱の合計は、対計画△782百万円(93.1%)である。
3. 輸送量動向は、ほぼ全品目で前年を大きく下回り、特に食料工業品は清涼飲料水の荷動きが低調な他、外食産業向けビールの輸送量が減少となった。その結果、コンテナ全体では前年比89.7%となった。

【事業開発部門】

1. 鉄道補完事業は、東京レールゲートWESTが2020年2月に竣工したが、同敷地の複合施設の営業を終了したことから収入は横ばいとなった。一方、鉄道付帯事業は一部物件の賃料見直しにより対前年△1.2億円となり、鉄道事業全体では対前年△1.6億円の131.3億円となった。
2. 関連事業は、磐田分譲マンション落成などの新規案件による収入はあったものの、前年度の八王子南口や茅ヶ崎の分譲マンションの反動減で対前年△22.4億円の180.8億円となったが、鉄道補完事業・鉄道付帯事業・関連事業のいずれも計画は達成している。

【組合の主張】

1. 職場で働く組合員は自治体から自粛要請が出されている中においても職場に出勤し「収入の確保」のために努力している。感染拡大防止対策について会社としてやるべき課題はしっかりと対応すること。
2. 新型コロナウイルス感染症の状況下において収入計画の変更は行なわないのか。また、今後の荷動きがどう変化していくのか想定はあるのか。職場で頑張っている組合員に対して、回答指定日には誠意ある回答を示されたい。

【会社の回答】

1. 新型コロナウイルスの感染拡大防止については、支社、現場と情報共有をしっかりと行ない、労使が一体となって引き続き取り組んでいく。
2. 輸送量の回復時期など業績に与える具体的な影響額の算定が困難であるため現時点では未定である。自粛により消費者・企業マインドが冷え込み、一段と鈍化が見込まれることから、当分の間は前年割れが続く可能性が高いため顧客の動向に一層注視していく。貴組合の主張を受け止め、引き続き社内で議論していく。

最後に中央本部は、今後の先行きが見通せない中であっても組合員は安全・安定輸送の確保に努めている。組合として会社に協力することは協力し、この困難を労使で乗り越えていかなければならないことを主張し交渉を終了しました。

以上

次回、第3回交渉は(6月初旬の予定)です。